

No. 1171

政局、夏の陣

472

林 正

「椎名副総裁が原点に戻って党の近代化について話し合うなら私も話す。しかし政権をおろろというなら、それは稔りがない」5月26日、三木首相は記者会見でこう述べた。

このところ、少しばかり、はしゃぎすぎる三木首相に三木内閣生みの親、椎名副総裁は三木ひきおろし工作を開始、党内の実力者と会談を重ねた。

シグ片山氏や大庭氏の証人喚問、しかし、ロッキード事件の解明は一向に進まない。核心にふれそうになると、いつも決って厚い壁につきあたる。

政府自民党は解決の糸口すら見つけ得ず、ひたすら自分たちの立場を守ろうとするばかり。こんな自民党に嫌気がさしたか、河野洋平氏ら党内6人の議員が新党結成の動きをみせた。

記者会見に臨んだ河野氏は「党の長老をはじめ、皆色々のことを言うけれども一向に行動力がともなわない。そこで我々が愚直ではあるがこんな行動をとった。」と述べた。

あわてた自民党内の長老グループは思いなおすようにと説得をくり返した。しかし、6人の離党の決意は固く、説得は失敗に終わった。

埼玉県東松山市。埼玉県二区は6人の侍の一人、山口敏夫議員の選挙区。山口議員はさっそく地元民へ経過報告。

「今の自民党はもう駄目だ。新党を結成して、日本のため、皆さんのため、生治生命をかけたい。地元の皆さんの御理解と御協力をお願いしたい。」

こうして山口議員は地元民の強い支援を受けた。

自民党の混迷に一応の收拾をはかろうとする三木首相と椎名副総裁の会談は21日、党本部で開かれた。くさいものにふたをした形の急場しのぎの妥協を見せたこの会談。いつ爆発するか政局はこれから暑くて長い夏の陣を迎える。

51. 6. 25 林